

# 天使のうそ ~ 法華七諭 ~

ある日のこと、父親が帰宅して子ども、自分の家が火事になっていた。

家の中にはまだ彼の子供たちがいた。それに気づいた父親はあわて

叫んだ。「見事だ！早く外に出なさい！」しかし、子供たちは遊びに

無中で逃げようとしなかった。子供たちは2Fの窓から飛び出してい

外に父親にこう言った。「パパー、おかえりなさい、いま遊んでいるから

後でねー」「だいたいどうも、これ終ったら行くからー」「おん、おにいちん、

火事な〜に？」父親は真青になった。いったいどうすればいい！

モタモタしていたり、父が家中にまわってしまい、外に出ることもできなくなってしまう

子供たちに、火事の恐ろしさを説明している暇はない。あの無邪気な子供たちが

父に包まれ、絶叫しながら火を死んでいく映像が頭をよぎる。そんな

悲惨なこと、絶対に、絶対にあってはならない！追いつめられた父親は

子供たちに向かって悲鳴のような大声でこう叫んだ。「うちにもっと良いおモチャがあるよ！

パパー、買ってきたんだ！さあ、ここで一緒に逃げよう！」「ええー、！ほんし！？」

「おモチャどこ？僕が先だよ」「わあああ、おにいちん、待ってー！」父親の言葉に

子供たちは一目散に家の外へと逃げだした。その瞬間、火の手は家を覆いつくし、

家は無残に崩れ落ちた。九死に一生を得て無事に家の外に出た子供たちを、

父親は泣きながら抱きしめた。「ごめん…ごめん…ウソなんだ」

上上が、仏教史上最も美しい経典である「法華経」に書かれた「法華七諭」と

呼ばれる七つの物語のうちの一つです。釈迦は弟子のシャリフトラにこの物語を語り

こう問にかけている。「シャリフトラよ、この父親はウソつきなのか？」シャリフトラは「違います、

これは方便(目的を達するための便宜上の手段)です。

史上最強の哲学入門より

おっちゃん  
だより

2017.7月号

(株)ISO

vol.96

余助 康弘



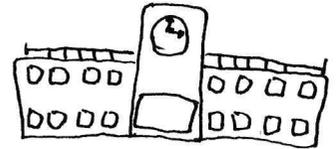
090-1638-5351

いつもありがとうございます!!

7月7日 作成



## ウソをついた少年



これは、あるブログでみつけたお話です。

ぼくは中学生のころ、いじめられていました。太っていたし、頭も悪いし、ひねくれている…

男女共にいじめられていました。ズボンをずらされたり、蹴られたり、殴られたり。。。クラス全員から無視されて

いました。母が、「学校どう？楽しい？友達できた？」とか聞いてきたから、「うん！楽しいよ！友達いっぱいできた！」

と答えていました。「〇〇君遊びに行ってくる！」と言って家を出て、一人で川原でボーッとしました。夏休みは長かったな。一人でボーッとしていても中々時間が過ぎないんです。母に心配かけたくなってそう

していたのですが、やっぱり嘘はバレてしまうんですね。

夏休み明けの授業参観日。体育の授業で“3人~4人で1組になって他の組と競争する”というのがあって…。僕はみんなから避けられているので、誰も入れてくれません。先生は「早くどこかに入りなさい」と言

います。「入れてください」と言っても、どの組にも無視され続けました。“どうしよう”と困っていると、「じゃあ、私とやろう…」と声をかけてくれた人がいました。その人は、涙を流していました。

まわりからの目は痛かったです。ほかの保護者の人たちがヒソヒソと話しをしているのが分かりました。それでも母は、泣きながらも競技に参加しようとしてくれました。そんな母の姿をみて、僕も涙が零れそうになりました。

その日の夜、いじめられていたことを正直に話しました。「俺の味方は一人もいないんだ」と言ったら「なに言っているの！私があなたの味方よ。何があっても、どんなことがあっても、仮にあなたが私のことを嫌になっても、私はあなたの味方！！いい？それだけは忘れなでね」

その言葉を聴いて、涙がとまらなくなりました。

日本では“嘘も方便”ということわざがあります。人も助けたいから、おあやかし許そうとする。必死にもがいて苦しんで、今も懸命に生きようとする人がいます。

“優しい” “強がり” “愛のある”

そんな「天使のウソ」に気づける人で

あったいですね!!

